



熱心に佐賀平野の水草を観察した。午後、少々夕立にあったが、無事終了することができた。なお、詳細については別記「水草研究第17回全国集会バス見学記」をご覧下されれば幸いである。

(第17回水草研究会全国集会幹事  
宮脇博巳 佐賀大学教育学部)

総会報告

I. 報告事項

1. 会員状況 (1994. 8~1995. 7)
  - 新入会 41名
  - 退会 11名 (うち3名は死亡による退会)
  - 除名 10名
  - 現会員数 318名
2. 1994年度事業報告
  - ★会報発行 No.52~No.54 (計96ページ)
  - ☆第16回全国集会 8月6~7日 釧路市  
(会報 54. 55号参照)
3. 1994年度会計報告

《収入》

前年度繰越金	— 52,206
会費	994,500
別刷代金	119,000
バックナンバー売上	155,730
利息	3,887

合計 1,220,911

《支出》

会報印刷費	1,060,900
会報発送費	194,940
通信費・送料	52,740
文具類	4,181
原田市太郎先生供花代	15,665
事務局謝金	10,000

合計 1,338,426

翌年度繰越 -117,515

II. 審議事項

1. 1995年度事業
  - ☆会報発行 55~57号
  - ★全国集会 8月19~20日 佐賀市
  - ☆会員名簿の作成
2. 来年度全国集会開催地  
総会後の交渉で来年度は富山で開催されることに決定

(文責 角野康郎)

## 水草研究会会報投稿規定

1. 投稿は本会会員に限る。但し、本会が依頼した場合はこの限りではない。
2. 原稿内容は、水草\*に関する調査、研究報告、解説（総説）、短報、諸資料、諸情報、エッセイ、他とする。なお原稿の内容に疑義のある場合は、書き直しを求めることがある。
3. 原稿作成にあたっては、以下の諸点に留意する。
  - A. 原稿は横書き原稿用紙に楷書するか、ワープロ（和文タイプ）を用いる。
  - B. 原著に相当する報文には著者名及びタイトルの英語を併記すること。また、著者が必要と認めた場合は、英文摘要（Abstract）をつけることができる。
  - C. 図は活字の貼り込みをのぞき、そのまま製版できるように仕上げる。図（写真含む）の右上または裏面に、図の番号と著者名を書き、説明は別紙に一括する。表は別紙に書く。表の説明は各表の上側につけ、必要に応じ、下に注をつける。
  - D. 文献の引用は、文献番号ではなく、著者名と年号を明記する。  
(例) 『三木 (1937) は、…』 『…である (三木, 1937) 』。また、文末の引用文献は、最近号の例にならって、著者の姓名のアルファベット順に配列する。
4. 掲載の順序と体裁、並びに校正は編集担当者に一任のこと。なお、特に希望する点があれば申し出る。
5. 別刷を必要とする場合は、投稿時に必要部数を申し込むこと（50部以上、50部単位）。費用は著者負担とする。
6. 送稿や編集に関する通信は、〒657 神戸市灘区鶴甲 1-2-1 神戸大学鶴甲学舎生物学教室 角野康郎宛とする。  
\*ここで言う水草は狭義の水草に限定せず、広く湿地や水辺の植物なども含むものとする。

<お願い>フロッピーのある方は、打ち出し原稿とともに  
お送りいただくと幸いです（ソフト名  
記）。

### 〔編集後記〕

もう今年も残すところ1ヶ月あまりという時点で、この後記を書いています。またもや会報発行の遅れをお詫びする羽目になりました。早くから原稿をお届けいただいていた方には、たいへん申し訳なく思っています。遅れたお陰(?)で夏の全国集会の講演の一部とバス見学の様子を、今回の会報に収めることができました。年々盛会となる夏の全国集会、それだけ水草や水辺環境への関心は高いのでしょう。会報の編集もしっかりしなければならぬと思っていますが、なかなか時間が思うに任せません。今回の号から当会報が学術刊行物として認められることになりました。それだけに内容の充実にも責任が出てきました。

会報は情報を受け取る場であるだけでなく、発進する場でもあります。会員の皆様の積極的な御寄稿をお待ちしています。

(角野康郎)

水草研究会会報 56号

1995年10月25日印刷

1995年10月30日発行

発行 水草研究会

〒657 神戸市灘区鶴甲1-2-1

神戸大学鶴甲学舎 生物学教室内

TEL (078) 803-0559

印刷 中村印刷株式会社

〒657 神戸市灘区友田町3-2-3